

湾中地区干潟保全協議会 ～干潟の保全活動～



根室湾中地区について

地域の概要

・私たちの住む町は、北海道根室市の西側に位置し根室湾のほぼ中央にあり、風蓮湖と温根沼の2つの汽水湖に隣接した自然豊かなところです。

漁業の概要

- 湾中地区の漁業は、かつてはサケ・マス流網や底刺網といった沖合漁業が主力でしたが、200海里規制の実施に伴って、現在、沿岸漁業に転換した。
- 沿岸漁業が対象とする魚介類は、「アサリ」「ホッキ」等を主力とする二枚貝、「カレイ」「コマイ」「チカ」等の魚類、「ウニ」、「ホッケイシマエビ」等々であり、地区内にある汽水湖、そして干潟域がこれら魚介類、ひいては地域の漁業にとって極めて重要な場となっています。



湾中地区の干潟の現状

湾中地区の干潟面積は全体で546.5haで根室湾海域358.9ha、風蓮湖及び温根沼に広がる干潟面積は、187.5haとなっている。

現在、以下の3点が問題となっています。

- ① 北海道東方沖地震等による地盤沈下による、干潟面積の減少
- ② 干潟の地盤沈下によるアマモ繁茂と、それに伴う底質悪化
- ③ ヒトデやツメタガイなどによる二枚貝の食害



二枚貝資源減少による干潟生産力の低下、漁業経営の悪化

湾中地区干潟保全協議会

発 足 日： 平成22年5月14日(環境生態系保全対策～)

目 的： 干潟の維持・回復、保全を図り、干潟生産力の向上を目指す。

構 成 員： 117名

活動内容： 協定の対象となる資源面積 546.4 ha

- ① 砂泥の移動防止
- ② 客土
- ③ 耕うん
- ④ 稚貝の密度管理
- ⑤ 機能低下を招く生物の除去（その他）
- ⑥ 機能低下を招く生物の除去（腹足類）

活動項目： 干潟の保全

今年度実施した活動項目とスケジュール

年間活動計画表			活動区分													
区分	対象資源	活動項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
計画づくり	干潟	話し合い 計画決定 進行管理			←→											
					役員会・総会											
モニタリング	干潟	現状把握 効果調査														
保全活動	海堀	砂泥の移動防止			←→											
					モニタリング(実施前)											
		保全活動														
		モニタリング(実施後)														
		客土			←→											
					モニタリング(実施前)											
		保全活動														
		モニタリング(実施後)														
		磯床底下を招く生物の除去			←→											
					モニタリング(実施前)											
		保全活動														
		モニタリング(実施後)														
		耕うん			←→											
					モニタリング(実施前)											
		保全活動														
		モニタリング(実施後)														
		稚貝の密度管理			←→											
					モニタリング(実施前)											
		保全活動														
		モニタリング(実施後)														

干潟保全の活動状況

保護区内及びその周辺の干潟保全活動の位置



① 砂泥の移動防止

砂泥防止作業の様子



土嚢の積み上げの様子



- ✓ 北海道東方沖地震によってアサリの漁場の2～3割が地盤沈下
- ✓ 地盤沈下した漁場は、アサリの生息密度が特に高く、主要な漁場

→ 客土の実施

- この客土した砂の流出を抑えるため、土嚢を約1,000個投入。

② 客土

客土作業の様子



客土用に改良した作業船



地盤沈下したアサリの主要な漁場に客土をし、アサリの生息場所を作る。

- ・客土の面積：年間約1.5ha
- ・客土に用いた砂：川の魚道入口部に溜まった砂を客土に再利用
- ・客土の時期：8月～12月
- ・客土の方法：組合所有の運搬船を使用し実施

③ 耕うん

耕うん作業の様子



耕うん作業の様子



地盤沈下及び泥の堆積により稚貝が成長できなくなった。また、アマモが繁茂するようになり、泥が更に堆積し、地盤も固くなった。

- ・目的: 泥の堆積やアマモの繁茂により底質が悪化し地盤が固くなった漁場の底質を改善する。
- ・方法: 熊手による人海戦術
(40~50人/回・4~5時間の作業・年に2回)
- ・時期: 6月~7月

④ アサリ稚貝の密度管理

密度管理の様子



密度管理の様子



・目的: 耕うんの際に採取した稚貝や、湾内の生息密度の高い場所から稚貝を採取し、客土した場所に移植し新たな漁場の造成を目指す。

- ・方法: あらかじめ設定した漁場から熊手、ザルにより採取し移殖を行う。
- ・時期: 6月~7月
- ・数量: 年間約3ト

⑤ 機能低下を招く生物の除去(ヒトデ)

ヒトデ除去作業



除去したヒトデ



約20年前から大量発生し、駆除活動が続けている。

・除去の方法:潮が引いた際に手やタモで採取、船が入れる場所では、桁やモップ状のものを曳いて採取

→ いずれも時間と手間がかかるのが難点

・除去の時期:8月～9月

・除去した量:人力 年間約4トン、船 年間約15トン

⑥ 機能低下を招く生物の除去(つぶ貝)

つぶ貝除去作業



除去したつぶ貝



流通しない小さいつぶ貝(食用つぶ貝とは別種)によるアサリの食害がここ数年増えてきている。そのため、昨年度から駆除の取組みを開始

・除去の方法:干潮時に手、タモ、火バサミ等を使用して採取

・除去の時期:6月～7月

・除去した量:年間約400キロ

モニタリング活動 ～効果調査～



【調査項目】

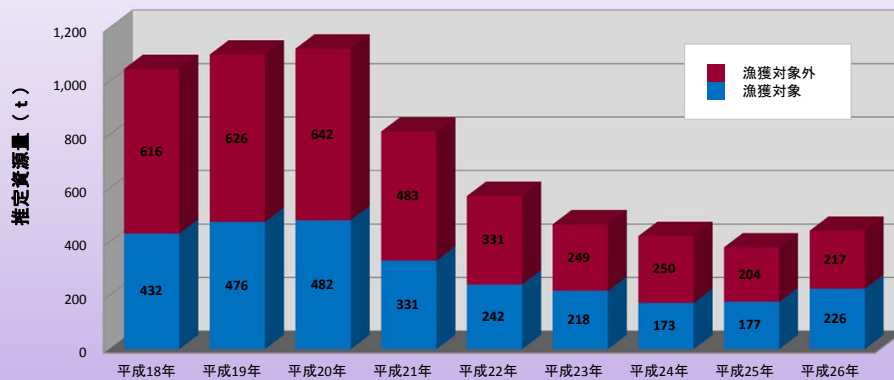
- ・資源量調査
- ・底質調査

【調査方法】

- ・資源量調査: 全9漁場、260ポイントより50g四方の枠内からアサリをサンプリング。殻長、重量測定後、密度面積法により算出。
- ・底質調査: 客土及び耕うん前後の底質の粒度分析を実施。

効果調査の結果

推定資源量の推移



	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
漁獲対象	432	476	482	331	242	218	173	177	226
漁獲対象外	616	626	642	483	331	249	250	204	217
総資源量	1,048	1,102	1,124	814	573	467	423	381	443

(漁獲対象は殻長46mm以上)

今後の課題と対策

- ・当地区でのアサリの漁獲対象サイズは46^{ミリ}であるが、漁獲サイズまでは最短で7年間必要。
- ・毎年、同じ作業の繰り返して漁業者の「やる気」が薄れる。
- ・漁業者が高齢化し後継者のいない世帯も少なくなく、未来のための資源づくりの意識が乏しい。
- ・後継者が少なく活動の中心となってもらいたい青年部の若者に元気がない。

※対策

良い結果は些細な事でも協議会に発信し苦勞した成果と喜びを共有することが大切である。

ご清聴ありがとうございました。



2011.9.11 ヒトデ駆除作業終了後記念撮影